

分野：アメリカ大衆文化史、黒人研究、ポピュラー音楽、エスニシティ



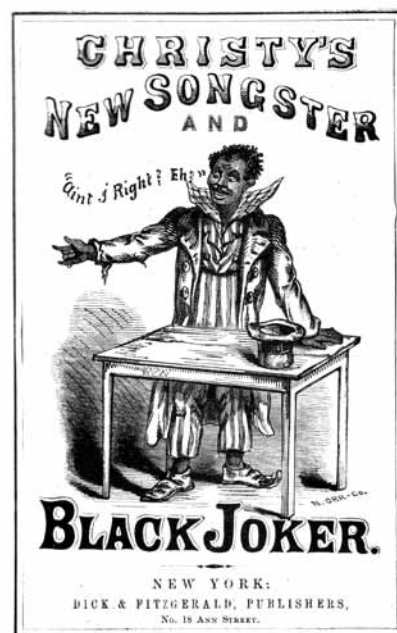
# ミンストレルショーと音楽 —アメリカ初期資料集成—

【復刻集成】全4巻＋別冊日本語解説

**MINSTREL SHOWS AND SONGS,  
AN ARCHIVAL COLLECTION OF EARLY AMERICAN BOOKS  
AND DOCUMENTS**

編集・解説 ● ウェルズ恵子（立命館大学文学部教授）

- 音楽、寸劇、舞踊を交えた娯楽で、黒塗りの白人が演じ、19世紀アメリカ合衆国の芸能と大衆文化、その後のステレオタイプな黒人像に大きな影響を与えた初期ミンストレルショーに関する初の一次文献集。
- アメリカが急速な変化を迫られていた時代に誕生、大流行し、以後、ポピュラー音楽や映画などに影響を与えたこの芸能が、どのように成立し、後世への方向性を定めていったのかを検証する。
- 「ディキシー」の作者であるダン・エメット(1815-1904)らが創設した初期の人気劇団バージニア・ミンストレルズの楽譜、絶頂期を代表する劇団で作詞作曲家スティーブン・フォスターを世に出したクリスティーズ・ミンストレルズのソングブックに加え、当時のアマチュア劇団のマニュアル、初期の歴史解説書を多数の図版も含め収録。



# ミンストレルショーと音楽

—アメリカ初期資料集成—

【復刻集成】全4巻＋別冊日本語解説

Minstrel Shows and Songs,  
An Archival Collection of Early American Books and Documents

編集・解説：ウェルズ恵子（立命館大学文学部教授）

2019年12月刊行 B6 & B5判・全約1,600頁

ISBN: 978-4-905211-12-9 本体セット価 118,000円（＋税） ※80部限定出版



FOURTH COUPLE.

## ●収録文献●

Volume 1 : Songbooks Part I (B6判・約450頁)

Introduction

*Christy's Plantation Melodies*, Book No. 1-4. Philadelphia, New York, Boston, Baltimore: Fisher and Brother, 1854, 284p

*Christy's New Songster and Black Joker*. New York: Dick & Fitzgerald, 1863, 79pp

*Christy's Bones and Banjo Melodist*. New York: Dick & Fitzgerald, 1867, 76pp.

Volume 2 : Songbooks Part II (B6判・約430頁)

*Christy's and White's Ethiopian Melodies*. Philadelphia: T. B. Peterson & Bros., [1854?]

1. *Christy and Wood's New Song Book*, 95pp.

2. *White's New Illustrated Melodeon Song Book*, 82pp.

3. *White's New Book of Plantation Melodies*, 79pp.

4. *White's New Ethiopian Song Book*, 84pp.

5. *Whites's Serenaders' Song Book*, 84pp.

Volume 3 : Manual & Guide Books (B5判・約500頁)

Dumont, Frank. *The Witmark Amateur Minstrel Guide and Burnt Cork Encyclopedia*. Chicago & London: M. Witmark & Sons, 1899, 176pp.

Powell, Herbert P.. *The World's Best Book of Minstrelsy*, Philadelphia: The Penn Publishing Co., 1926, 319pp.

Volume 4 : History and Sheet Music (B5判・約350頁)

Paskman, Dailey & Sigmund Spaeth. "*Gentlemen, Be Seated!*": *A Parade of the Old-Time Minstrels*. New York: Doubleday, Doran & Company, 1928, 313pp.

Old Dan Emmet's Original Banjo Melodies. "My Old Aunt Sally" & "O Lud Gals Me etc." Boston: Chas. H. Keith, 1843, 6pp. [Sheet Music]

Virginia Minstrels: The Celebrated Negro Melodies. "Ole Dan Tucker." Boston: Geo. P. Reed, 1843, 4pp. [Sheet Music]

Virginia Minstrels: "Jim Crack Corn." Baltimore: F. D. Benteen, 1846, 3pp. [Sheet Music]

Virginia Minstrels. Playbills [Broadside]



## 編集者よりー本復刻集について

(別冊解説より抜粋)

ウェルズ恵子

アメリカ合衆国の芸能の中で minstrel show ほど影響力が大きく、同時にこの国の歴史と社会の問題をどっぷりと抱え込んで展開し、かつ批判されてきたものは他にないだろう。それは、19世紀の半ばから後半にかけて、アメリカがアメリカ合衆国としての統一を意識し社会構造も経済体制も急速な変化を迫られていた時代に発生し、大流行した。そして約100年後、つまり3世代ほど後のアメリカ人がすでにアメリカ文化の独自性を疑わなくなった時、文化の多様性と各々の尊厳を主張するなかで、この芸能形態は勢いを失い、別の様式へと拡散していった。minstrel show の盛衰には、もちろん、人々の意識の他にも戦争や映画の発明と流行など、関わりを持つ重要な要素が少なからずある。他方この資料集では、約一世紀半にわたる minstrel show の歴史の中で、その功罪入り混じった影響を鑑みつつ、これが芸能としてどのように成立し後世への方向性を定めていったのかを確認すべく、初期 minstrel show を中心とした一次資料を扱っている。原点に戻って、minstrel show の芸能としての立ち上がりを探るとともに、アメリカ音楽文化との関係に注目したい。

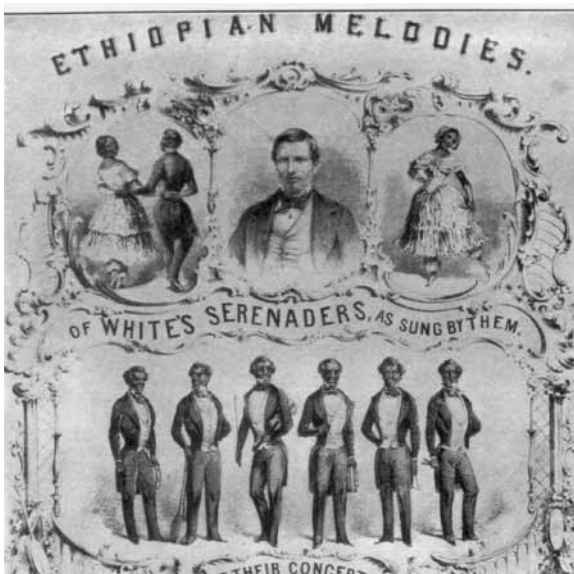
JOSEPHUS ORANGE BLOSSOM

Allegretto

PIANO

My name it is Jo-si-phus Or-ange Blossom, I'm the  
gay-est Col-ord Gem-man in the land, With the  
pret-ty girls I al-ways plays the Pos-sum, in a

54



**THEATRE ROYAL, DUBLIN.**  
THIRD NIGHT OF THE RE-ENGAGEMENT OF  
**Mr COLLINS**  
*Last Appearance but One of the celebrated Original*  
**VIRGINIA MINSTRELS**  
(FROM AMERICA.)  
Messrs. F. M. BROWER, R. W. PELHAM, D. D. EMMIT.  
IN CONJUNCTION WITH  
Mr. J. W. SWEENEY, (Leader,) the Original Banjo Player.  
This present FRIDAY, April 26, 1844,  
Will be performed SHAKESPEARE'S PLAY of the  
**TEMPEST:**  
With entirely New Scenery, Machinery, Dresses, & Decorations.  
THE PLAY TERMINATED WITH THE USUAL MENT OF THE  
**STORM ON SHIP-BOARD!**  
With the Wreck of the Royal Vessel!

## 推薦します。

東京外国語大学名誉教授 荒 このみ

アメリカ社会を知るには、「アメリカの黒人」について深く理解していなければならない、というのは常識です！

19世紀に始まる minstrel show の実態を、資料によって再現する本資料集成は、「アメリカの黒人」に対する差別の創出がいかになされてきたかを知る、適切な資料集です。

かつて日本で顔を黒塗りにした歌手グループがあらわれました。今日でも外国で白人のスポーツ選手がブラック・フェイスになり、あるいは故意に人種差別を意味する身ぶりをして問題になっています。すたれたとはいえ minstrel show やブラック・フェイスの伝統は、21世紀になった今でもまだ生きているのです。ポロをまとった愚かな田舎者や、気取った都会の自由黒人の類型は、「ジム・クロー」「ジップ・クーン」として19世紀の観客を沸かせましたが、アメリカ人の精神の根底に差別の構造として潜んでいます。

本資料集成は、初期の minstrel show を芸能および音楽のジャンルからつまびらかにしてくれる画期的な企てです。日本人にもなつかしいフォスターの「おお、スザンナ」は、各 minstrel 演劇集団がこぞって採用し、盛んに歌われ大人気になりました。それはカリフォルニアのゴールド・ラッシュのテーマソングになり、金鉱掘りで活躍した中濱万次郎も歌っていたと言われていました。そうすると minstrel show が私たち日本人にもにわかになりに感じられてきませんか。

# アメリカ黒人霊歌

## 19～20世紀初頭文献復刻集成 全4巻＋別冊日本語解説

### American Negro Spirituals 【編集・解説】 ウェルズ恵子（立命館大学文学部）

2012年刊行 総約1,500頁 本体セット価：¥95,000-（＋税） ISBN 978-4-905211-02-0

- アフリカ系アメリカ人とその文化を理解する上で欠かせない黒人霊歌の、展開と受容・研究の歴史を、貴重文献により辿る初の復刻コレクション。
- 文献として記録された最初期の南北戦争の時代から Fisk Jubilee Singers が成功した 19世紀後半、白人研究者が登場した 1910年代までの流行期まで、最も重要とされる文献を精選。
- 文学、歴史、音楽史研究のみならず、エスニシティ、宗教、大衆文化、社会運動、文化人類学、民俗学の研究にも有益。

#### 【収録文献】

**VOL.1:** Thomas Wentworth Higginson, “*Negro Spirituals*” *The Atlantic Monthly*, Volume XIX (June, 1867).

・エミリー・ディキンソンの最初の詩集を編集出版した Higginson (1823-1911) による、黒人の生活と歌の関わりを伝えた最初の報告であり、黒人民謡における宗教歌の重要性、文学としての価値を社会に知らしめた記事とされる。37曲を掲載。

William Francis Allen, Charles Pickard Ware and Lucy McKim Garrison, *Slave Songs of the United States*, New York: A. Simpson & Co., 1867.

・三人の編著者が採録したり、他から提供を受けたりして収集した計136曲を掲載したアンソロジー。音楽に関する専門的興味に基づいて編纂され、黒人霊歌の文献として最も重要である。隔離性が高かった奴隷歌を地域に分けて編集した点に、黒人の言葉への深い関心と体系的な歌の保存を目指した編者の意図が表れている。

G.D. Pike, *The Jubilee Singers and Their Campaign for Twenty Thousand Dollars*, Boston: Lee and Shepard. New York: Lee, Shepard and Dillingham. 1873.

・テネシー州フィスク大学の黒人学生の合唱隊ジュビリー・シンガーズ (The Fisk Jubilee Singers) が結成された時代背景および成り立ちや学校の運営資金を得るために実行した講演の苦難と栄光を描く。著者は、解放奴隷の高等教育が可能なること、それによって国に明るい未来が期待できる、というメッセージを掲げている。巻末に合唱団の黒人霊歌レパートリー 61曲を楽譜とともに収録。合唱団は欧州、日本にも巡演して好評を博している。

**VOL.2:** Marshall W. Taylor, D.D, *A Collection of Revival Hymns and Plantation Melodies*, Cincinnati: Marshall W. Taylor and W.C. Echols, 1883.

・黒人起源の聖歌と白人の賛美歌とを区別なく掲載し、最初の奴隷解放から約30年たったアメリカ社会での、黒人文化の理解と受容の度合いを、浮き彫りにするアンソロジー。20世紀に民俗音楽学者から批判をされた編集方針だが、黒人の地位向上を目指した著者の理想を体現しているといえる。

J. Frederick Work, *Folk Songs of the American Negro, Number One*, Nashville: Work Bros.&Hart Co., 1907.

・書名に Folk Songs(民謡)とあるが、黒人霊歌の古典曲を定着させたフィスク大学のワーク兄弟が収集し、編曲を施した歌唱用の聖歌集。

**VOL.3:** J.B.T. Marsh, *The Story of the Jubilee Singers, with supplement; Containing an Account of their Six Years' Tour around the world, and many of their New Songs*, by F.J.Loudin. 1881, Cleveland: The Cleveland Printing & Publishing Co., 1892.

・バイク版ジュビリー・シンガーズ伝2著を基にした増補改定版。新たに78曲を加え、索引も付記するなど歌集として使いやすくなっている。北米と英国、ドイツ訪問の部分が1881年にまず出版され、1882年から1888年までの世界公演旅行を加えたものが1892年に刊行された。

**VOL.4:** Henry Edward Krehbiel, *Afro-American Folksongs: A Study in Racial and National Music*, New York: G. Schirmer, 1914.

・19世紀後半から20世紀初頭にかけてのアメリカを代表する音楽評論家を書いた、アフロ・アメリカン民謡の全体を扱おうと試みた研究書。アフロ・アメリカンの民謡がアフリカの音楽でも白人からの借り物でもなく、アフリカの伝統をくんだアメリカ独自の音楽であり、黒人がアメリカ文化の生成に寄与していたとした。20世紀初頭としては、黒人と白人とを同じ「国民」とみなした点で革新的、斬新であった。

John Wesley Work, *Folk Song of the American Negro*, Nashville: Press of Fisk University, 1915.

・音楽、文学、社会、民俗という複数の視点から総合的に黒人霊歌に分析を試みた最初の研究書。一章と二章でアフリカン・デアスポラとしての歌、三章から民謡として捉えた歌を論じる。

Gospel Pearls, *Edited and Compiled by Music Committee of the Sunday School Publishing Board*, Nashville: Sunday School Publishing Board National Baptist Convention, 1921.

・163曲を楽譜とともに収録する初期のゴスペル歌集で、編集委員にワーク兄弟を含む。1900年代、1910年代に著作権がとられた歌も多く、新しい聖歌も続々と作られていたことがわかる。



発行元：EPM c/o ユーリカ・プレス

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-201

エディション・シナプス内

TEL: 03(6257)1030 FAX: 03(5521)0026

取り扱い書店：